



全国制覇したのんかなべア

セイスポ

星槎スポーツ新聞

第15号★2017年10月6日(金)

星槎グループ セイスポ編集部発行
神奈川県 中郡大磯町国府本郷 1805-2

のんかなべアの誕生

「あの子たちはレベルが違っ」千葉県白子町、中高生のテニスプレーヤーであれば誰もが知るその「聖地」で星槎国際高等学校の名は一躍注目の的となった。50回目の節目を迎えた全国高等学校定時制通信制全国ソフトテニス大会は、団体戦(都道府県対抗)では岩上希海が

主将としてチームを牽引し、東京都勢初となる優勝を果たした。個人戦(ダブルス)でも岩上と松井海南江が星槎国際八王子では開校以来初となる全国制覇を成し遂げ、見事2冠を手にした。

「のんかな」の最強ペアが結成したのは、実は今年の5月。4月初、部員不足に悩む岩上は、昨年度の総合体育大会ではシングルの部で優勝を飾ったが、定通制の全国大会にはダブルスの部しかないので、全国に出るためには「あと一人」が絶対に必要だった。そんな頃に「経験者が転校してくる」という一報が届く。それが松井だった。

両者の保護者が見守る中、出会ったその日に初練習が行われた。しばらく打ち合いをしていると、松井の母親が「ずっと前から友達だったみたい」と呟いた。2時間の練習が終わるころにはすでに「ペア」は完成されていたようだった。テニスコートの管理人さんが「記念日だから」と写真を撮ってくれた。コートの施設内に咲く満開の桜の下で「もう一度テニスと向き合おう」と誓い合い、二人の挑戦は始まった。

東京都大会から全国大会へ

全国予選東京都大会では星槎国際高校初となるダブルスの部で優勝を果たす。シングルの部で優勝は岩上。準優勝は松井で星槎国際のワンツーフーニッシュを飾ったが、岩上に「1ゲームも取れなかった」と松井は悔しさを滲ましていた。その日以来、全国大会へ向けた練習は一層熱が入った。全国大会当日、さすがの2人も「これが白子か」と憧れの地を前に多少の緊張をしている様子だった。海風が強く、普段通りの動きが出来ずにいたが、それすらも楽しんでいく余裕があった。決戦前夜は顧問と3人でミーティングをした。いままでも応援してくれたすべての人に感謝して、悔いなくプレーしようと思った。

団体戦は3ペア1チームで組まれる。のんかなべアは全試合1番手として出場した。定石で行けば2番手にエースペアを置くことが多いのだが、監督は「チームに勢いを付けて欲しい」という采配をした。2人はその言葉通りの活躍を見せる。5回戦では前年度優勝チームの兵庫県代表と激突した。兵庫県とは同じ宿舎という点もあり、前日から互いに気になる存在であった。のんかなべアは初めて「苦戦した」ようにみえる試合だったが勝利を収め、3番手の最終ゲームまで持ち込む死闘を制した。その辺りから「東京女子が強い。あの1番手は誰だ?」と観客席がざわついている様子が分かった。団体監督曰く、この優勝は奇跡に近いという。そしてその勝因は星槎の2人がよい流れを作ってくれたことがすべてだと褒めてくれた。

団体戦を制し、個人戦へ

最終日の個人戦も前日同様、着実に勝利を重ねていく。準決勝では昨年度3位入賞の兵庫県ペア。兵庫県勢の観客席は男子も集まり、誰が見ても異様な雰囲気だった。「気合が入っているな」と二人に話すと、「大丈夫ですよ。負けませんから」と静かに答えた。試合が始まると、第1、第2ゲームを連続で取られた。追い込まれた二人を見たのは初めてだったが、ここからの戦い方がすごかった。後衛の岩上はどんなボールでも拾いに拾った。フォア、バックともに強烈な打球は文句なしで大会ナンバー1だった。前衛の松井も課題としていたサーブが勝負所でバンバン決まった。決勝はまさかの東京対決。奇しくも都大会と同様の順位になった。

「日本で一番」の称号を二つも手にした二人は口をそろえて「もっとやれた」という。ペア結成初日に「記念写真」を撮影してくれた管理人のおばさんに日本一の報告を終えるのと、「私は最初から分かってた」と笑って、また新たな門出の記念写真を撮ってくれた。卒業まであと半年、テニス以外の場面でもまだまだ成長できるはずだ。

全国高等学校通信制柔道大会



1本をどりに攻める

今年の全国高等学校定時制通信制柔道大会において、星槎国際富山の3年清水建希が男子個人75kg級で準優勝した。今大会に向け体重コントロールもしっかり行い、ベストの状態での試合当日を迎えることができた。今大会は、個人で優勝することを目指して挑んだ。試合は午前中に団体戦を行った後、午後から個人戦。団体戦は富山県選抜チームで試合に臨んだ。団体戦の初戦、清水は一本勝ちで勝利し、チームも5対0で勝利。つづいて2回戦

は、清水は一本勝ちで勝利したが、1対4でチームは負けてしまった。団体戦は結果ベスト8で終了した。個人戦の決勝戦までは、立ち技と寝技で交互にすべて一本勝ちで勝ち進んだ。いい流れで決勝戦まで試合を展開することができた。

決勝戦の対戦相手は、団体戦優勝の兵庫県飾磨工業高校の選手だった。試合の中盤に背負い投げで技ありのポイントをとられ、逆転することができず、そのまま試合が終了。本人は非常に悔しがっていた。10月に行われる北信越大会では、団体戦・個人戦ともに優勝することを目標に掲げ、これからの稽古に励んでいく。

初出場6位入賞! 陸上女子3000m



賞状を手に喜びをかみ締める

行われた県予選のタイムは14分36秒。課題の残る走りだったが全国大会出場が決まっただけで、先輩や体育の先生に付き添ってもらい、さらに練習に励んだ。

いよいよ本番の8月11日。女子800m予選。この種目は推薦を受けて出場したが、慣れない部分があり、スピード不足で予選落ちだった。「全然ダメだった、悔しい。3000mはもっと頑張る。次は自信がある。800mを走り終わる極度の緊張から開放されたのか、本命の3000mに力が入る意気込みと余裕が出てきた。8月12日、女子3000m予選。宣言通り、最初から先頭集団についていき離されることなくそのま

ま3位でゴール。タイムは13分34秒。県予選のタイムより約1分縮め、決勝進出を決めた。決勝に進出する18人のうち吉岡のタイムは8位。タイム的に表彰台は難しいが、入賞ならいけるかもしれない位置だった。8月13日、女子3000m決勝。自分より速いタイムで、ついていけそうな選手をマークして走る。ペースが落ちないように、腕を大きく振り、腿をあげて走る。最後に作戦と基本を確認し、いざスタートラインへ。終始、落ち着いた走りで行き、先頭集団についていく。最終、タイム12分43秒で見事6位入賞。「最後、1人抜こうと思ったけど抜けなかった。最後の力が足りなかった。来年は表彰台に立ちたい。終わっちは次の目標に向かっていく。」

終盤、少しずつ離されていくが最後まで粘った。結果、タイム12分43秒で見事6位入賞。「最後、1人抜こうと思ったけど抜けなかった。最後の力が足りなかった。来年は表彰台に立ちたい。終わっちは次の目標に向かっていく。」

北京オリンピックメダリストの太田雄貴選手らを育てた父であるフェンシング元日本代表監督江村宏二氏と共に彩の国プラチナキッズの指導にあたった。今回の練習は、間近にせまる全国大会出場に向けた最終トレーニングとすることで、江村美咲さんが発する一言ひとことに耳を傾け、子ども達は熱心に指導を受けていた。練習風景はかなりの迫力があり、見学にいられた方々は一同に現役のアスリートの指導に圧倒され

と共々感動している様子だった。プラチナキッズのトレーニングや合宿は、今後川口キャンパスにて定期的に実施する予定となっており、時間の合間をぬって江村美咲さんも直接指導を行う予定となっている。

今回来校された江村宏二氏の他、元ロンドンオリンピック近代五種監督の才藤浩氏、リオオリンピックコーチの本間孔一氏等々、著名なアスリートの指導はもちろん、五輪を戦った経験を持つ専門スタッフが集い、近代5種及びフェンシングを重点的に指導、強化する予定となっている。特にフェンシング3種目の中でも「エペ」「サーブル」の指導を行う学校は全国的にも珍しく、また全国高校総体では「近代5種」を実施しているため、高校チームとしては全国初の取り組みとなる。現在、川口キャンパスでは次年度の新入生を気持ちよく迎え入れるため、江村氏を含む星槎スタッフが心をひとつにし、丹念に準備を行っている。

江村美咲さんが来校!



江村美咲さん(右より3人目)と一緒に

未来に向けて スポーツを超え

ミャンマー、ブータンで 活動したコーチが帰国 ―さらなるスポーツ支援へ―

世界こども財団と星槎グループではミャンマーオリンピック委員会との協定に基づき2017年4月より村田剛コーチを同国の長距離代表チームに派遣してきた。8月末にマレーシアでのSEA Games(東南アジア競技大会)に出席し、活動に一区切りのついた村田コーチは一時帰国したが、今後も「ミャンマーの若い世代のために活動を続けたい」という思いを語ってくれた。次回派遣について現在調整中であり、2020年

へ向けて継続的な支援を行うため準備を進めている。また、同国柔道代表チームには講道館より齋藤太成コーチが派遣されていたが、期間中、2017年7月に星槎道都大学において一ヶ月にわたり合同強化合宿の受け入れを実施し、SEA Gamesでは合宿に参加したエーアン選手が女子78kg級にて銀メダルを獲得した。

帰国後のコーチ2名は星槎グループ宮澤保夫会長を訪問し報告を行った。また、世界こども財団の

職員と共に9月12日(火)には、東京のミャンマー連邦共和国駐日大使館を訪問し、トゥレイン・タン・ズイン駐日大使と面会。大使ご自身が様々なスポーツを愛好されていることから、世界こども財団と星槎グループのミャンマーへの支援、そしてコーチの現地での活動に感謝の言葉に加え、「ミャンマーでの活動は一旦終了したが、今後も柔道着を集めて送るなど、継続的にミャンマーへの支援と関わりを続けていきたい」と話す齋藤コーチに対し「寄付の際には免税の措置が取れるよう、必ず協力します。大使館のことを忘れないでいてください」という暖かい申し出をいただいた。

一方、東京オリンピック・パラリンピック大会での事前キャンプ協定を締結しているブータン王国とも、様々なスポーツを通して交流・支援活動が進んでいる。その一環として星槎アスレチッククラブの田中由一コーチが、2017年7月から2ヶ月間にわたり、ブータンの陸上競技選手支援のために活動し、9月に一時帰国した。今回の田中コーチの派遣は2017年5月の短期派遣に続き2回目となり、ブータンでは田中コーチの熱意そして先進的な指導方法がすでに定着しつつある。田中コーチの活動も、2020年、そしてさらに未来を見据えたものであり、次回の活動に向けて準備中だ。

世界こども財団、星槎の仲間たちが、世界各国で現地に飛び込み、共に汗を流し、スポーツの技術だけでなく、星槎の想いを青少年に伝えるべく活動を続けている。今後も彼らの活動に注目するとともに、応援していきたい。



バスケット ボール専攻

7月の強化合宿

男子バスケットボール専攻は、7月中旬から岐阜県御岳で合宿を行い、基礎体力の見直し、心肺機能の強化、集団生活での他者への配慮などを目的としたトレーニングを実施した。

選手たちは4月に入学してから、様々な大会を7名で戦ってきたが、やはり課題は40分間走りぬく体力・脚力・メンタリティーが必須だと感じていた。恵まれた環境の中で合宿ができた事は、選手たちの今後の活動に大きく影響を与えてくれた。

午前中は標高1800mまで上がり、地面が柔らかいクロスカントリーコースで長い距離を走り、午後からは体育館で、フアンダメンタルトレーニング・技術練習を行った。選手たちは早朝5時に起床し、朝食までの限られた時間を利用し、体育館でシュート練習を毎日行っていた。天候も変わりやすく、気温が低い日もあったが、何とか7名で合宿を乗り越える事ができた。5泊6日の合宿を経て、選手たちは成長することができ、ベストなパフォーマンスを長く続けられる事を、今後の試合で示していく。

8月の練習試合

8月は実戦練習を中心し、約18チームと練習試

神奈川県高等学校野球 秋季地区予選

平成29年度 神奈川県高等学校野球 秋季地区予選が8月19日に開幕した。川崎地区、横浜地区、湘南地区、横須賀地区、北相地区、西湘地区の6地区に分かれて県内の各球場で熱戦が繰り広げられる中、星槎国際湘南が2勝1敗で県大会出場を決めた。秋季大会は、地区予選を勝ち進むと、県大会、関東大会へと続き、最終的に春の甲子園(選抜高校野球大会)につながる。星槎国際湘南も初の甲子園出場をめざしている。

新チーム発足

夏の大会を終え、約一週間。青空の下、新チームは新たなスタートをきった。練習を前に部員が中井球場のスタンドに集まり、土屋恵三郎監督から「今日から新チーム。0からのスタート。再び『必笑』できるようにみんなが頑張っていく」と新チームの目標が述べられた。数日後、幹部の発表があり、主将に小倉(2年)、副主将に石橋・松下(2年)が就任し、新たなスタートをきった。

地区予選 星槎 vs 平塚江南

平塚江南高校は公立ナンバーワン投手の呼び声が高い富田を中心とする。評判通りの投球をする富田に対し、なかなか打ち崩せない。一方、星槎のエース石橋もテンポの良い投球で相手打線に隙を与えない。息の詰まる投手戦の拮抗を破ったのは星槎だった。0対0で迎えた4回、先頭の4番松下が右中間へスリーベース、続く5番一柳がセンターへの適時

両親や祖父に感謝を伝えたい。もっとも力を付けて上位打線を打てる打者に成長します」と笑みを浮かべながら語った。

地区予選 星槎 vs 平塚学園

県大会出場が決まっているが、1位通過を目指す星槎国際湘南は、同じ西湘地区で甲子園出場経験もある平塚学園高校を相手に絶対に負けられない一戦。序盤からエース石橋が精彩をきき、守備でもミスが続く、投手を中心とした守り勝つ星槎らしい野球ができず、流れが完全に平塚学園のペースになると、不運にもフライが野手の間に落ちるヒットや失点に繋がるエラーが重なり5回に7失点。星槎国際湘南の悪い所が全て出た試合と言える。投手力、打力、守備力全てにおいて歯車が合わなかった。

この悔しさを県大会に活かせるか。試合後、エースの石橋はこの試合は、とにかく課題が多く出た。投球の工夫がもっと出来ていれば、自分が最大の敗因なので、チームを助ける投球ができるよう県大会でも頑張りたい」と、唇をかみしめながら振り返っていた。



リラックスした様子の陸上部

留学生の日常生活

留学生が来て、半年が経ち日本の生活にもだいぶ慣れてきた。日本語も会話の中で、少し使えるようになってきた。寮生活での何気ない会話も彼らにとっては勉強になる。授業でも日本語、英語と彼らの勉強熱心には頭が下がる。出された宿題はもちろん、練習後の字の読み書きなどもしっかりとやっている。

フリカでは宗教関係で食事制限されているところもある。中でも豚肉が一切食べられない。私たちの食事には日常的に豚肉が使用されている。豚肉には必要な栄養素も入っている。食事の取り方も考えなくてはならない。また、5月〜6月にかけて断食があったり、魚、肉も保存が十分にできないので完全に火を通さないと食べなかったりと、食文化の違いを痛感

御岳合宿と箱根合宿

7月22日(土)〜27日(木)に岐阜県御岳、8月1日(火)〜5日(土)に星槎箱根CPで2回の合宿を行った。岐阜県御岳合宿では、標高2000mで行い、エリトリア留学生は環境が母国に近い。喜んでいただけ。エリトリア国の首都アスマラは標高2300mで、通年で湿度がなく、気温も20℃前後だ。

新入生は長期間、親元から離れることがなかった。不安はあったと思うが、仲間がいたので心強く、みなで力を合わせて合宿を過ごした。この合宿では、できることはすべて自分たちで行った。洗濯はもちろん、食事の配膳、食器洗い、宿舎のトイレ掃除、お風呂



勝利の雄たけび

短信

組太鼓一般の部 打鼓音 準優勝

今回は一般の部に小学生から高校生までジュニアと打鼓音の研修生の20名が出演。年々激戦区となる東日本大会はレベルも上がってきている。打鼓音の演奏は響の精神を持ち、笑顔で楽しく大人以上の技術力を持ったすばらしい演奏だった。演奏最中から会場では大きな拍手が沸き起こり、終わってみると司会者までもが感動をし、言葉に熱く語ってくれた。

12月9日に行われる日本一決定戦で、再度日本一をかけて演奏する。

よう、成長していきたい。』
 というのが工藤の目標だ。
 星槎道都大学応援団が、
 明治神宮球場で応援する
 日は、そう遠くない。

今回のテーマはスポーツ貧血。陸上選手で悩まれている方が多くいる貧血。2009年、国民体育大会の強化指定選手である中高校生・成年170人のヘモグロビン値を測定したところ、その25.3%が鉄欠乏性貧血であることが判明している。今陸上界では深刻な問題である貧血は、陸上だけでなく様々なスポーツ選手にいます。サッカー、バレーボール、剣道の選手などの他種目のトップレベルの選

手でも男性では約10%、女性では約20%が貧血と言われている。記事を通して皆さんに知っていただき、指導者は選手を守り、選手は自分の身体を守ってほしい。

貧血と鉄欠乏性貧血

まず貧血には2種類ある。「貧血」と「鉄欠乏性貧血」だ。「貧血」は、体内の血液量が減少したり、血液中の赤血球やヘモグロビンが少なくなることによって起る貧血。主に月経などで出血が多くなったり、何らかの病気で出血が継続的に続いたりすると起こりやすくなる。

「鉄欠乏性貧血」は、血液中の鉄分が不足してしまふことで起る貧血。

栄養バランスが偏っているために鉄分の摂取量が不足して起こったり、鉄分の吸収障害や、妊娠や授乳期などで体内の鉄分が多く使われてしまうことによって起こる。これらは似ているように見えて実は違うことがわかっていただけたらどうか。スポーツ選手がなるのは、基本的に鉄欠乏性貧血でスポーツ貧血と呼ばれる。

貧血はなぜ起きる

では、なぜ貧血は起きてしまうのか。原因として、筋肉が増加する成長期の時期は、鉄の必要量や発汗量が増える。1日に2〜3 Lの汗をかくと、体内から約1〜2 mlの鉄が失われる。大量に汗を

かくことが主な原因だ。また運動によって体の奥の深部体温が上昇すると、赤血球膜は壊れやすくなる。そこへマラソンや剣道、サッカーなどの種目は、何度も足を強く地面を踏みつけ、足底の毛細血管に衝撃が加わることから、赤血球が破壊され、血色素が鉄分として尿中から漏れ出し、鉄が失われやすくなる。特に成長期の場合、鉄は血液を作る以外に、筋肉や骨格などの体を構成する組織づくりにも使われる。つまり、いくらあっても足りない状態にある。

また、女性には月経による出血もあるため鉄が失われやすく、男性より貧血が多い傾向にある。赤血球の寿命は約120日。

壊れる赤血球の数が作られる数を上回れば、赤血球が減少する。これらが貧血の原因である。

貧血になると

次に貧血になるとどんな症状になるか。疲れやすい、食欲不振、全身倦怠感(だるい)、頭痛、動悸・息切れ、眼瞼(がんけい)結膜蒼白、爪の変形、集中力が低下するなどの症状がみられ、記録の低下や伸び悩みにつながる。また氷や硬いものなど食べにくくなる異食症(貧血により中枢神経が乱れること)が原因と言われている)が起る。

来月は、血液検査上の指標の見方、治療や改善のための食事について説明したい。

貧血になると

5歳のときに近所にスポーツクラブができて、小学校入学と同時に始めた。中学時代は日本中学校体育連盟 全国中学校体育大会札幌支部大会に出場し、50M バタフライで優勝。

優勝した時、2位の人とのタイム差が0.06秒だった。この大会は絶対に優勝しなかったので、タイムを競う競技にとって「0.06秒」の差がどれほど大きいか感じた瞬間だった。金メダルをもらった時はとても嬉しかった。

水泳をしていて辛かった思い出は、練習が苦しくて涙を流しながら泳いでいると、ゴーグルの中が水で一杯になる。目が痛くなってくるし、前は

見えなくなり目標本数に到達するまでは止めることができず大変だったことだ。しかし、その経験から多少のことでは挫けない心が鍛えられた。嫌なことや困難に直面しても「必ず乗り越えられる」と知っているから大丈夫」と思い頑張れる。自分と戦うことを身につけられた。

尊敬するコーチは5歳のときから教えてもらっていたコーチ。病気で亡くなってしまうが、水に入れない状態になるまで、私たちの練習をそばで見て教えてくれた。最後のお別れの時、選手みんなですれぞれの種目で優勝すると約束し、大会に臨んだ。コーチの気持ちや愛情は、今振り返っ

でも胸がいっぱいになる。
星槎の部活動・スポーツ専攻について、「ちょっと始めてみたい人」にも「世界を目指したい人」にも応えられる高校はほかにないと思う。好きなこと、得意なことに思う存分挑戦する場所と活躍の機会をつくれるように、センターでも心がけている。

これからの日本の水泳の発展について、水泳の身体（健康）への効果によって、さまざまな世代へのも更なる普及を期待している。私は大学生のときに、スイミングクラブのインストラクターをしていたが、幼児クラスは、1・2歳の子どもたちが顔に水をつけるところから始め

た。私たちの生活に欠かせない水だからこそ、より身近なスポーツとして親しまれているのだと思う。また、マスターズの大会等では100歳の選手が競泳を楽しんでいる。水圧による血行促進や、関節への負担も少なく、左右対称に筋肉を使うことや有酸素運動であることも、多くの世代が楽しめる魅力の一つであると感じる。また、プールを使う競泳・シンクロ・水球・飛び込みなどの種目の他、まだ知られていないマイナー種目もたくさんある。それらがオリンピックの競技種目となり、日本選手活躍の場が広がると嬉しいと話してくれた。

星槎
教師

列伝

困難に直面しても
必ず乗り越えられる
ことを学んだ

星槎国際高等学校 札幌北学習センター
副センター長 小坂夏海

小坂夏海

ニュース速報

WMC (世界ムエタイ評議会)
1 位

星槎国際高等学校横浜鴨居学習センター 2年の奥脇竜哉がタイのバンコクにて勝利を積み重ね、WMC（世界ムエタイ評議会）ランキング 1 位に認定された。タイの雑誌や新聞等のメディアにも大きく取り上げられている。詳細は次号で。

**全日本社会人バドミントン
選手権大会 優勝**

9月2～6日、広島市にて開催された第60回全日本社会人バドミントン選手権大会に、星槎大学の学生が4名出場した。佐伯祐行は、男子ダブルス優勝、男子シングルス32強。米田健司は男子ダブルス16強、混合ダブルス一回戦敗退。西村有貴は男子ダブルス64強、混合ダブルス64強。高島祥太は男子ダブルス二回戦敗退。佐伯と米田の2名が11月28日～12月3日に行われる全日本総合バドミントン選手権の出場権を獲得した。

平成29年度 神奈川県高校女子サッカー 選手権大会

9月16日、かもめパークにて
県立藤沢清流高校との間で準決
勝を戦い、4対1で勝利。23日、
湘南学院にて私立湘南学院との
間で決勝を戦った。結果は2対
1で勝利した。詳細は次号で。

SKY(スカイ)プロジェクト 第5弾 ブータン王国 アーチェリー選手が来日

星槎グループ/世界こども財団の招聘で来日したブータンのアーチェリー代表チームが、9月16日(土)・17日(日)、愛知県岡崎市で開催された全日本アーチェリー連盟主催の第1回 ISPS HANDA CUP に出場。日本代表選手も多く参加する中、男子個人コンパウンド部門優勝、女子団体混合チームが優勝など、好成績を残した。9月19日には相洋高校弓道部を訪問し、生徒から熱心な指導を受けながら弓を射っていた。詳細は次号。

セイスポ

兵庫県代表
飾磨工業高
校。星槎よ
りも一回り
大きな選手
が9人並ん
でいた。初
回に先制を
許すも、4
回には徳永
(1年)のタ

「ヤバい、ヤバい…」その言葉が何を意味するのかが真意は明らかではないが、選手たちは聖地を目前に興奮していた。曇天の下、第64回を迎える全国定時制通信制軟式野球大会の開会式が神宮球場で行われた。全国から集まった猛者達の中に「SEISA」の名を背負い立つ選手の姿は誇らしく思えたが、出場25校の中で体の線がひと際細い印象を受けた。

試合前夜に谷合(2年)を呼び、明日の先発登板を伝えた。ほどよい緊張感の中、暗がりの中でバットを振る音が所々で聞こえ、新チーム指導からはじめて「これぞ、野球部」といえる雰囲気仕上

8月18日晴れ。相手は
手たちは我慢を覚え、仲間の大切さを知り、応援される事の喜びを感じてくれたと信じている。星槎国際東京にとって、選手一人ひとりにとって、まだ見ぬ景色を見に行く「旅はまだ終わらない。ここからがまた、スターである。」(小沼慶多)

星槎国際富山の林れな(2年)が富山県代表のバドミントン団体メンバーに選抜され、全国大会においてベスト8になった。林は今回全国大会初出場。小学校からバドミントンのチームに所属し、練習に励んでいたが、高校2年生になり半年間まったくバドミントンのラケットを握ることもなかった。今回は、久しぶりにバドミントンと向き合い、また全国大会という大きな舞台で、最初はかなり緊張していた様子だった。



スマッシュを決める

バドミントン団体 ベスト8

しかし、富山県代表のメンバーとも強化練習会などで打ち解けて、仲良くなることができ、全国大会では2回ダブルスで出場したが、ペアとの息もぴったりだった。試合終了後「バドミントン、やっぱり楽しい」と話しており、10月の北信越大会にむけて、団体メンバーと練習に励んでいる。「応援にかけつけてくださる先生方、ありがとうございます。北信越大会も応援引き続き、よろしく願いいたします。」

星槎国際富山の林れな(2年)が富山県代表のバドミントン団体メンバーに選抜され、全国大会においてベスト8になった。林は今回全国大会初出場。小学校からバドミントンのチームに所属し、練習に励んでいたが、高校2年生になり半年間まったくバドミントンのラケットを握ることもなかった。今回は、久しぶりにバドミントンと向き合い、また全国大会という大きな舞台で、最初はかなり緊張していた様子だった。

夢のつぎ

守りから攻撃へ



イムリーで五分に戻した。5回に四球が続き2点目を許した所で宮田(3年)に継投したが、制球が定まらず失点を重ね3点のビハインド。「わーい」と肩を落とす宮田に対して中学時代の後輩でもある大沢(2年)が陣の中心に入り、「宮田さんが情けないんで、俺たちで何とかしましょー」と吠える。皆に笑顔が戻った。直後、打線が爆発し、8人を巡る一挙3点で同点に戻す。不思議な力が働いた。

7回からはエース秦の登場。完璧に2回を締め、流れを作るも、最終回のプレッシャーからか、2者連続の四球を許す。タイムを取り「ひとつずつアウトをとろう」と確認をした。直後、ゆるいバウンドボールがショート正面に飛ぶ。守る宮田が捕球態勢に入ったその瞬間、ボールはその軌道を変え頭上を越した。イレギュラーバウンド。皆、時間が止まったかのよう

全国大会では、入賞者にスポットが当たりがちだが、柔道で全国ベスト8になった星槎国際郡山の大河原大輔にも注目してもらいたい。彼は、星槎に入ってから柔道を始めた「素人選手」である。高1の11月に当時の高橋浩之顧問に勧誘されて入部。同時に入部した

4人の仲間と共に切磋琢磨し、翌年には、初の全国大会出場。しかし、そこで実力差を見せつけられ惨敗。しかし、彼はへこたれなかった。その理由は2つ。1つは、柔道部OBの存在である。仕事や学校終わりにいつも練習に顔を出してきて稽古をつけてくれた。また、彼らも素

柔道を始めて 16ヶ月の快挙



果敢に技をかける

人から星槎で柔道をはじめ、全国大会に出場し活躍していた。「目の前にいる先輩たちを超えることができた自分も全国で戦える」という身近に目標があったからこそ高いモチベーションを保って練習に取り組みることができた。2つ目は、一緒に入部した同級生の吉田大喜の存在である。彼らは入部前から仲が良く、入部後も本当の意味で切磋琢磨してきた。普通、練習中ニコニコ笑っていたら怒られることが多いが、

彼らは、本気になればなるほど笑っていた。本気で戦えることが楽しくて笑っていたのである。笑顔が多いほど体は激しく動いている。実に不思議な光景ではあるが、その練習が彼らを成長させた。平成29年度全国高等学校定時制通信制柔道大会で個人75kg級ベスト8。通常だと全く見向きもされない結果であるが、わずか16カ月で柔道素人が達成した記録としては、とても誇れる結果だと思つ

星槎国際帯広 卓球大会に出場

全国高等学校定時制通信制卓球大会が8月1日から3日まで東京都の駒沢体育館で行われ、星槎国際帯広からは4名の選手が挑んだ。

大会1日目には、男子個人1回戦と女子個人1回戦が行われた。男子個人1回戦に出場した神代幸多(2年)は、1セット目を奪取し2セット目からは、攻めのドライブからファイナルプレーを続出した。2セット目、3セット目では、攻めのスタイルで相手をよせつけず、完全勝利した。結果として、3対0の完勝で1回戦を突破した。

2回戦は、1回戦の勢いをそのままに攻めのドライブやスマッシュ、サーブミスエースを決めるなど攻めの卓球を展開し、3対0の完勝で2回戦を突破した。

女子個人戦には、井川遥香(2年)が1回戦に挑んだ。初の全国大会の舞台で緊張し、硬さが目立った。1セット目を相手に取られてしまつ。しかし、

第52回 自転車競技大会



スタートダッシュ

うな中で今回伊藤にとってのはじめての自転車競技大会出場であった。競技経験のまったく無い伊藤であったが、昨年の同大会で準優勝を果たしている星槎国際浜松卒業生村松翼さんの協力、全国で最も古い老舗自転車店として知られる御園井サイクルさんの協力も得て6月から練習を開始した。はじめてのことばかりで最初は自転車の扱いにも不慣れなことも多かったが、本人の強い意向により往復50kmにもなる通学路を競技用自転車を通学することを決め、その頃からタイムを意識した走りをするようになった。

また今回、競技の特質上練習場所を確保することが非常に難しかったが、各地で探している中で、浜松市の全面協力を得ることができ、市の所有である浜松オートレース場を無償で貸していただくことになった。浜松市としてもはじめての試みとのことであったが、実に早く練習場所として提供していただいたこと、オートレース場の方も応援をいただいたことは本人にとって何よりの励みとなったことである。当日は、様々なサポートや応援、本人の努力もあり入賞は逃したものの、自己ベストを記録。1kmトライアルでは64人中23位、4km速度競争では全国8位という成績を残すことができた。はじめての大会にしては立派な成績であるが、本人は来年の入賞を目指してすでに練習を始めている。

8月19日(土)から21日(月)にかけて「平成29年度全国定時制通信制体育大会 第52回自転車競技大会」が静岡県伊豆にある日本競輪学校にて開催され、星槎国際浜松から伊藤恭佑(2年)が出場した。全国的に高校生の競技人口が少ない自転車競技だが、やはり全国大会ともなると将来競輪選手を目指す生徒や自転車競技部に力を入れている学校の出場が多く、そのよ

しまつ場面が目立ってしまった。力負けをしてしまい0対3で敗北した。神代は、「応援ありがとうございます。来年は、団体個人共に入賞を目標として努力と鍛錬をおこなってまいります。」と意気込みを語った。

自転車競技に挑戦した今年の夏、体力面や技術面の向上だけではなく、様々な人々からサポートや応援を受けたことよって人の温かみを感じる熱い夏となった。

全国高等学校 定時制通信制体育大会 結果(入賞分)

- ◆ ソフトテニス 星槎国際八王子 岩上 希海・松井 海南江
女子ダブルス(東京都代表) 優勝
女子ダブルス(個人) 優勝
- ◆ 柔道 星槎国際富山 清水 建稀・竹内 琳樹也
男子団体(富山県代表) ベスト8
男子個人75kg級 準優勝(清水 建稀)
- ◆ 陸上競技 星槎国際福岡中央 吉嗣 楓
女子3000m 6位入賞
- ◆ バドミントン 星槎国際富山 林 れな
女子団体(富山県代表) ベスト8
- ◆ 剣道 星槎学園北斗校 守山 裕稀
男子団体(神奈川県代表B) 3位入賞